

ふれあいめーる かつま

第45号

平成14年(2002年)2月14日
勝間ふれあいセンター
TEL 92-0043 FAX 92-0044

E-mail kafure@town.kumage.yamaguchi.jp

お知らせ

勝間ふれあいセンター利用者会議開催

3月1日(金)午後7時30分～
大会議室1

平成14年度の利用者団体調整会議を上記日時に開催いたします。勝間ふれあいセンターの定期利用を希望される団体(サークル)の代表者又は代理の方は、ぜひ、ご出席ください。

現在定期利用されている団体で日時等の変更をご希望の場合や、新しく利用したい団体(サークル)は、事前に、ご連絡下さい。当日の会議で調整しますのでよろしくお願ひいたします。

又、各団体(サークル)の総会・イベント・大会等の14年度の計画が決定していましたら、会議の時、知らせて頂けたらと思います。

尚、随時利用される団体の方も 調査表(使用・団体名簿表)の配布及び記入等ありますので出席の程お願いします。

勝間ふれあいセンターの使い方

◇ 勝間ふれあいセンターを利用したい時は？

① 使用したい日時・会場が空いているかを来館するか電話で確認する。

(予約は1ヶ月前から受け付けます。)

② 勝間ふれあいセンター窓口または教育委員会備え付けの使用許可申請書で申し込む。

(申請は、3日前までにお願いします。)

③ 使用後は次のことを必ず守って下さい。

☆ 火気の点検(ガス等)

☆ 清掃(使用した会場・共用部分)

☆ 備品(机・イス等)の整理整頓: 使用中破損した場合は報告して下さい。

☆ 缶・ビン・ごみ・生ごみ等のお持ち帰り

☆ 節電、省エネルギーにご協力ください。

④ 使用後は管理室前の使用日誌に記入してから帰る。

『きたときよりも美しく』

楽しく

生涯学習!

使用ルールを守ろう！

♪あいさつ運動推進♪

平成13年度 あいさつ運動推進道路看板標語が企画委員会（生涯学習推進協議会並び校外育成連絡協議会）により決定（昨年12月17日）しましたので報告いたします。

《「おはよう！」と照れずに言える勝間っ子》

新清光台5丁目：清水 真弓 10才

今回、多くのご応募をいただきどうもありがとうございました。また次回（ふれあい祭りのとき）募集の際も、ぜひよろしくお願ひいたします。

∞ 勝間地区生涯学習推進協議会よりお願い ∞

☆ 3月10日（日）13:20～熊毛町生涯学習まちづくり大会（文化講演会：講師 毒蝮 三太夫 先生）がサンウイング熊毛で開催されることは、勝間地区の皆様もご承知でしょうが、この大会は、生涯学習に取り組んでいる各地区的活動発表の場でもあります。これまで、勝間地区の活動発表は、勝間ふれあいセンターを中心に利用・活躍されている団体に活動発表をして頂いており、今回は、ラ・フェト・コンティニュー（代表：重岡 恵美）の皆さんに発表をして頂きます。勝間地区の皆様もぜひ、この大会に参加してご鑑賞して頂ければと願っております。

勝間地区の活動発表

- テーマ 「楽しく 金管アンサンブル」
- 発表者 ラ・フェト・コンティニューの皆さん
- 紹介 私達（ラ・フェト・コンティニュー）は、今年 結成4年目の金管アンサンブル団体です。毎年 冬に行われるアンサンブルコンテストに出場することを目的に、練習を日々重ねています。今回は、先日行なわれたコンテストで演奏した「シャンパニユ」他1曲をご披露します。
- 発表時間 13:40～各地区活動発表（13:50頃から10分間）

掲示・展示発表

※ 今回の展示は、ふれあい講座「学びまっしょい」勝間地区ボランティアリーダの方と勝間地区生涯学習推進協議会委員のお二人にお願いしました。ぜひ、大会に参加され すばらしい作品をご観覧ください。

- ① 手芸 【飯田 雅子（叶 松）】
- ② 油絵 【原 捷太郎（御所尾原）】

熊毛町「おもしろ科学クラブ」代表：安東三郎（幸ヶ丘）

ふれあいめーる かつま 38号でも紹介した、熊毛町「おもしろ科学クラブ」活動が、ソニー教育振興財団のソニー子ども科学教育プログラム（科学が好きな子どもたちを育てる教育計画）で優秀と認められ、奨励プロジェクトグループに選定されその授賞式が2月9日（土）11:00から勝間ふれあいセンターで行なわれました。（教育実践グループでは最高の評価です。学校・教師ではない民間の教育実践グループが選定されたのは国内初唯一です。）

○この賞は1959年に始まったソニー教育賞で、山口県では、下松市 豊井小・徳山市 遠石小・萩市 椿東小・新南陽市 富田西小・平生町 平生中が、今年度までに入選プロジェクト校に選定された歴史ある教育奨励賞です。

21世紀の日本国が目指す科学技術創造立国を支える青少年の科学教育振興が最重要課題との認識で2001年度より科学教育振興の奨励賞に変革され、教育実践グループも選考対象になりました。